

令和 3 年度

多治見市社会福祉協議会

福祉共育のまとめ

令和3年度に市内の小中学校で行われた福祉教育や体験活動をまとめました。

コロナ禍で、高齢者や障がい者の疑似体験による思いやりの心の育成、地域や通学路の環境美化による社会貢献活動（ボランティア活動）、高齢者とのふれあい交流など様々な取り組みがされました。

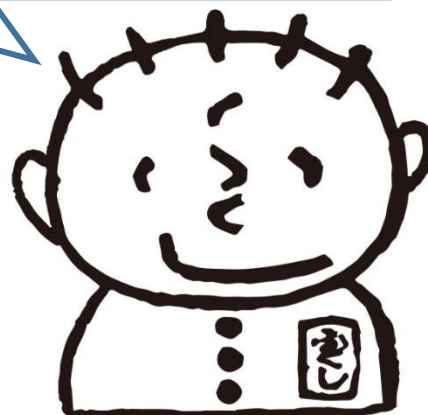
今後の取り組みの参考にしていただければ幸いです。

社会福祉協議会では、こうした学校で行われる福祉教育や体験活動を支援させていただきますので、お気軽にご相談ください。

掲載ページ

池田小学校	1
共栄小学校	3
小泉小学校	5
養正小学校	7
市之倉小学校	9
滝呂小学校	11
精華小学校	13
南姫小学校	15
昭和小学校	17
根本小学校	19
脇之島小学校	21
北栄小学校	23
笠原小学校	25
北陵中学校	27
南姫中学校	29
南ヶ丘中学校	31
陶都中学校	33
多治見中学校	35
小泉中学校	37
平和中学校	39
笠原中学校	41

小学校・中学校名をクリックすると各学校の『ふくし』の取組や活動内容を見ることが出来るよ☆



令和4年5月

池田小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ 【すべての人に健康と福祉を】
内 容 車いす体験
生徒のコメント 普段の生活で歩いている気が付かなかった段差や坂、障害物が、車いすに乗ってみると大変な障害物になることがわかった。

○ 活動面での総括

◎評価できること 実際に車いすに乗る体験をしたり、福祉協議会の方に講師として指導していただいたりしたことによって、学校では学べないことや経験できないことが体験を通して学習することができた。
△今後の課題 継続して実施していくこと。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	ホームページに活動を紹介 学年通信に掲載
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	
福祉体験	車いす体験
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	赤い羽根共同募金
学校間の情報交換・交流等	
その他	



共栄小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【地域の方へ渡すプランターへの移植を教えてもらう３年生】

内 容

- ① 学校で育てた花を地域に配布し、花いっぱいの共栄にして地域の方に喜んでいただく。
- ② 地域の文化の一つである太鼓を地域の方から学び、自分たちが育つ地域のことをより深く理解する。

生徒のコメント

みんなで協力して育てた花が地域に飾ってあり、やってよかったととてもうれしく、思いました。

地域の文化である太鼓について、学びました。覚えるのに苦労しましたが、実際に太鼓をたたいていると、力強い音がいいなと思い、練習が楽しくなりました。

○ 活動面での総括

◎評価できること

コロナ禍の中で、途中、指導して下さる地域の方に指導を直接いただけない時もあったが、それまでに学んだことを思い出しながら繰り返し練習したことが児童の自信となった。「花いっぱい運動」と「太鼓学習」は地域の方と対面して行なったため、共栄校区への愛着を育むことができたのではないかな。地域の新しい側面にふれたり地域の方との交流が深まったりした。どの児童にも「この地域で生まれ育ってよかった。」という気持ちを育むことができた。

△今後の課題

- ・今後も、この二つの活動を継続していきたい。
- ・児童の取組や活動について地域等に広報していくことを考えていきたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	
調査・研究(地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等)	地域の方から、地域太鼓の伝統や歴史について学んだ。(3年生)

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	花いっぱい運動を通して、まちづくり市民会議の方に育てた花を贈った。地域の美化活動に関わった。(3年生) 太鼓学習を通して、地域の方から教わり、地域の文化について理解を深めた。(3年生)
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	アルミ缶回収活動を行った。(ボランティア委員会)
福祉体験	車いす等の介護設備の使用体験は感染予防のため中止。白杖体験を通して視覚障がいの方の思いに寄り添ったり、介助者に求められることについて理解を深めたりした。また、高齢者のものの見え方や手指の感覚を体験し高齢者福祉の大切さを理解し、独居老人への年賀状を出した。(5年生)
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	
学校間の情報交換・交流等	
その他	全校児童の人権意識を高めることを目的に、委員会活動を中心に「さわやか挨拶運動」「ハピポカ言葉がけ運動」を行った。(児童委員会活動)

小泉小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ 【思いやりと感謝の気持ちのあふれる子】
内 容 コロナ禍でも活動可能な内容に精選し、視覚しょうがいがある方の体験（白杖体験・アイマスクの体験）を行いました。また、例年計画している高齢者福祉施設訪問はコロナ禍のため、新たに車いす体験計画しました。また、車いす体験からは、新校舎のバリアフリーの設計についても学ぶことができました。
児童のコメント 車いす体験では、段差が大きな障害になることが分かった。新しい校舎では、そうした段差が少なく、スロープやエレベーター、多目的トイレなど、バリアフリーの考え方が形になっていることが分かった。また、アイマスクや白杖体験では、目が見えないとどんなことが大変なのか体験をしてみてもじめて分かった。話をしてもらったから、実際の生活で困ることも分かったので、私たちにできることがあったら、声をかけたいと思った。

○ 活動面での総括

◎評価できること 今年度もまた、コロナ禍ではあったが、社会福祉協議会の協力のもと、白杖体験・アイマスク体験・車いす体験ができて大変感謝しています。また、新校舎のバリアフリーや、図書館の SDG`s コーナーには新刊を導入し、より人権や福祉の学習に興味を持てるように、環境整備を行ないました。
△今後の課題 福祉体験を通して学んだことを、自分の身近な人や地域で出会った体の不自由な人に対して実践的な態度を育てていくこと。また、より人権や福祉の学習に興味を持てるように、SDG`s との関連性を含めて、障がい者福祉・高齢者福祉の分野の学習をさらに進めていくこと。

○ 広報・啓発活動のまとめ

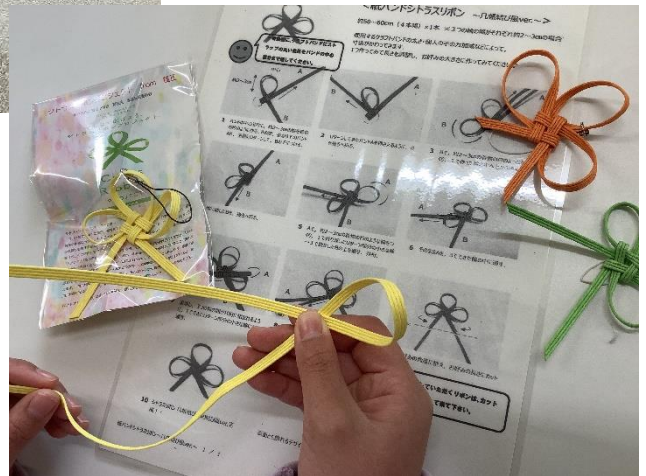
活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・特記事項なし
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・学習したことや講話を聞いて学んだことを新聞にまとめた。
調査・研究(地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等)	・特記事項なし

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	・独居高齢者との年賀状の交流
学校行事への招待	・昔遊び交流(3年生) ・高齢者の方との交流・感謝活動(2年生)
美化・環境整備活動等	・PTA親子・職員合同ボランティア活動 (教材倉庫棚づくり・掃除道具かけづくり)
福祉体験	・アイマスク体験・白杖体験・視覚しょうがい者の方の講話 ・車いす体験
学校行事外の参加活動	・特記事項なし
収集・募金活動	・赤い羽根共同募金(児童会)
学校間の情報交換・交流等	・特記事項なし
その他	・特記事項なし



養正小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ 【福祉「体験活動を通して、差別・偏見のない持続可能な福祉活動を考える」】
内容 体験や交流活動を通して、身のまわりの福祉について調べたり考えたりする。（募金活動、障がい疑似体験、あいさつ運動、育友会活動との連携）
児童のコメント 最近では、パラリンピックという障がいのある人たちのオリンピックも盛んになってきたこともあり、車いすを使ってスポーツを楽しむ人も増えている。実際に障がい者や高齢者の目線になって、ユニバーサルデザインやバリアフリーデザインを使ってどれだけ便利なのかを調べてみたいです。

活動面での総括

◎評価できること 高齢者疑似体験だけでなく 2020 東京オリ・パラリンピックの開催を通して、またコロナ禍における差別・偏見をなくしていく活動を通して、広い視点から高齢者や幼児、障がい者の気持ちを考え、思いやりの心や態度を培うことができた。
△今後の課題 コロナウイルス感染症予防に配慮しながら、活動内容を工夫していくこと。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	たじみまつりの鼓笛隊パレードは中止になったが、昨年度同様に市役所駐車場で発表する場をもうけていただき、地域の方と交流できた。器楽・金管クラブとKIZUNA 養正とのジョイントコンサートは中止となった。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	児童の福祉体験や校内の異学年交流活動を、学年通信、校報、HPなどで、全校児童・保護者・地域の方にお知らせをした。
調査・研究(地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等)	バリアフリーについて教室で学習した後、校内のバリアフリーについて調査した。さらに、まち探検の中で、地域にあるバリアフリーの様子について調査した。また、2020 東京オリ・パラリンピック開催を通してボッチャや車いすを使ったスポーツ等にも関心を広げることができた。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	一人暮らしや福祉施設入所の方へ、6年生が年賀状交流をした。コロナ禍のため、施設に入っの見学や訪問はできなかった。
地域での訪問・交流・体験活動	育友会の家庭教育活動と連携し、コロナ禍における差別や偏見をなくしていく「シラスリボンプロジェクト」を行った。教室でリボンの主旨と作り方を保護者から学ぶ→高学年が低学年に伝える→各家庭で保護者とリボンを作成しながら主旨を共有する。→作成したリボンのラッピングを手伝い、協賛していただいた地域のお店に持って行く活動ができた。 2年生の生活科まち探検、4年生の社会科まち探検を実施した。感染予防に配慮しながら、地域の方に説明を受けるなど交流を深めることができた。
学校行事への招待	学校行事への招待はほとんど中止となる中、運動会では保護者だけでなく地域の方に児童の活動(運動だけでなく6年生の鼓笛演奏も)を参観していただいた。
美化・環境整備活動等	5年生の総合学習で地域の生田川の美化活動を行った。その後、下校しながら通学路の美化活動と、休日に地域の美化活動を行った。活動を地域まちづくりの方々の協力を得て花の苗の育成や空中スイカ、野菜を育てた。日頃お世話になっている「子ども110番の家」へ花の苗を贈呈した。
福祉体験	4年生が車いす体験を校内で行った。また、社会福祉課の出前授業「年をとるということ」で、様々な高齢者体験を行った。
学校行事外の参加活動	養正公民館祭りに、各学級から作品(習字・絵画)を出品した。参加型の行事は自粛した。
収集・募金活動	児童会中心に赤い羽根共同募金への呼びかけと募金活動を行った。「心のとも」活動を特別支援学級の児童を中心に行った。計画から封筒作成・全校放送によるよびかけ・注文等、活動全般を進めた。
学校間の情報交換・交流等	近隣の多治見高校の生徒が来校し、6年生の外国語授業に参加した。(各クラス年2回)外国語指導教師とともにコミュニケーション活動の補助を行った。
その他	

市之倉小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【福祉について広く知る】

内 容

今年度は疑似体験や施設訪問等予定していた活動が、コロナのまん延防止等重点措置の延期が重なり全て中止となった。よって、「福祉」を広義に捉え、6年生を送る会において、6年生が気持ちよく卒業できるよう、全校で準備し、会をつくり上げた。

児童のコメント

5年生が中心となって、企画運営し、準備を在校生全員で行うことができた。6年生も笑顔になってくれたので、頑張ったかいがあった。

○ 活動面での総括

◎評価できること

学校のみんがが幸せな気持ちになることについて考えることができ、他者に感謝の気持ちを表す態度が育った。

△今後の課題

講師を招いたり、施設へ訪問したりすることは、今後も困難と思われる。よって、福祉活動をしている団体などとオンラインでつながって、福祉の実態を学んだり、社会で行われている福祉活動について知ったりする機会を設けたい。

補助金も必要ないと思われる。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	高齢者福祉施設への訪問との交流を企画していたが、コロナ禍ということで中止となった。
地域での訪問・交流・体験活動	
学校行事への招待	1年生の昔遊びについて老人会の方々を講師として招く予定であったが、緊急事態宣言下ということで中止とした。 6年生を送る会にお世話になっている方を招待する予定だったが、中止し、会も全校児童は集合せず校内でオンラインを使って実施した。
美化・環境整備活動等	夏の運動場の草取りを地域の方にも依頼する予定であったが、コロナ禍ということで中止した。
福祉体験	6年生が福祉協議会の方に、車椅子の使い方指導を受け、高齢者の疑似体験も行う予定だったが、コロナ禍ということで中止した。
学校行事外の参加活動	夏と年末の地域清掃に小学生の有志が多く参加した。
収集・募金活動	
学校間の情報交換・交流等	
その他	市之倉地区の独居老人へ3・4年生が年賀状を書いて送る活動を行った。



戻る

滝呂小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【福祉に関わる体験学習を通じて、その状態におかれた方々と共生していく意識や態度を育む。】

内 容

学校や家庭、地域にあるバリアフリーの工夫を知る。また、それを必要とする方々の体験活動を行う。

生徒のコメント

点字ブロックや身の回りにあるもの等、目の不自由な方々を助ける工夫がたくさんあることがわかった。まずは、障がいについての理解を深め、自分にできることを考えていきたいと思った。

○ 活動面での総括

◎評価できること

バリアフリーの現状を知るだけでなく、そこから自分たちのできることを考えられた。

△今後の課題

コロナ禍でより安全な体験活動を行うために、より慎重な配慮が必要である。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	
調査・研究(地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等)	・タブレット端末を活用して、地域の福祉について調べ学習をした。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	・独居の方への年賀状作成/送付
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	
福祉体験	・点字作成キットの紹介 ・見守り活動講座を受講 ・高齢者体験 ・視覚障害者体験
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	
学校間の情報交換・交流等	
その他	



精華小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【障がいについて正しく知ろう】

内 容

車イス体験, アイマスク体験

聴覚障がいの方の話を聞く会

生徒のコメント

アイマスク体験をして、視覚障がいの人は真っ直ぐ歩くことが難しいし、歩くことがとても怖くて、助けがないと歩くことができないということがとてもよくわかりました。ガイドヘルパーさんはとても大切な役目なんだなあとわかりました。

○活動面での総括

◎評価できること

車イス, アイマスク等の体験的な活動を少人数のグループで行うことができた。
オンラインで、聴覚障がいの方の話を聞くことができた。

△今後の課題

新型コロナウイルス感染対策の中での体験, 聞く会となった。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・福祉委員会による「赤い羽根共同募金」の呼びかけ ・特別支援学級による「心の友運動」の呼びかけ
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	・高齢者（独居老人）への年賀状
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	
福祉体験	・4年生の総合的な学習の時間におけるアイマスク体験，車イス体験，聴覚障害の方の話を聞く会
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	・アルミ缶回収 ・赤い羽根共同募金
学校間の情報交換・交流等	・居住地校交流（東濃特別支援学校）
その他	



南姫小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【福祉体験】

内 容

車椅子体験やアイマスク体験

児童のコメント

目が見えない状態で歩くことの不自由さや怖さが分かりました。困っている人がいたら、積極的に声をかけたいです。

○ 活動面での総括

◎評価できること

車椅子体験やアイマスク体験を通して、障がい者や高齢者の気持ちになって考える学習ができ、優しさや思いやりの気持ちをもって接したいという思いをもつことができた。

△今後の課題

学んだことを生かし、実践する力を付ける。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	学校報や学校のホームページ、学年通信に掲載し、全校児童、保護者、地域の方への広報を行った。
調査・研究(地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等)	手話やバリアフリー、ユニバーサルデザインについて、テーマを決めて調べ学習を行った。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	
福祉体験	・5年生児童による車椅子体験とアイマスク体験
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	・委員会による「赤い羽根共同募金」活動
学校間の情報交換・交流等	
その他	



昭和小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【相手の立場を理解して、助け合いや思いやりの心を育てる。】

内 容

自分とは違う環境の中で生活している人々の不自由さを知ったり、地域の人たちに貢献できる活動を考え、体験したりすることができる。

生徒のコメント

私は、当たり前のように生活しているけれど、目が見えないと怖いし、困ることが多くあると感じました。障害のある方の大変さを知ることができました。これからは何か手伝えるといいです。

○ 活動面での総括

◎評価できること

4年生では、アイマスク体験や障がい者擬似体験をすることで、障害のある方に対する思いやりの気持ちをもつことができた。6年生では、花いっぱい活動を通して、地域貢献する気持ちを育てるとともに地域活動に参加する気持ちをもつことができた。手紙を書くことで独居老人の方と交流することができた。

△今後の課題

体験したことや学習したことを全校放送や新聞などを使って全校に広めていけるようにする。コロナ禍において、自分たちにはどのような活動ができるのかを委員会活動等で考えていかなければならない。福祉の学習で学んだ「人と接する際に大切にすべき心構え」や「思いやりの気持ち」など実際の生活で生かすことができるようにする。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・ 思いやりの大切さについて、学年通信、校報「昭和」やPTA新聞「昭和小ニュース」、ホームページなどに掲載して、全校児童、保護者、地域の方にお知らせをした。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	・ 4年生が、校区内在住のお年寄り（独居老人）へ年賀状を出した。お年寄りからの返信等もあり、児童だけでなく、学校職員にも活動の意義を伝えることができた。（社会福祉協議会との連携）
学校行事への招待	花いっぱい運動 地域の方々かが種をまいて育てた苗を引き継ぎ、児童は花が咲くまで大切に育て、地域の方々や様々な施設に贈呈した。通学路でいつも見守ってくださっている方への感謝の気持ちをもって育て、校区の様々な場所にプランターを贈った。地域の高齢者に鉢を贈る際には、元気が届くように励ましの手紙も書いて添えた。その後、配付したところからお礼の手紙が届き掲示した。
美化・環境整備活動等	
福祉体験	・ 4年生が「総合的な学習の時間」で聴覚障がい、視覚障がい等について調べたり、疑似体験をしたりして、障がいについて考えたり、福祉について考えたりした。 ・ 福祉センターに見学に行き、学んだことや体験したことを新聞にまとめた。
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	
学校間の情報交換・交流等	・ 東濃特別支援学校の6年生児童1名と本校の児童8名がWebを通じて、意見交流をした。
その他	

根本小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ
【「人と人とのつながりを大切に」】
内 容
学校敷地内を、花を植えたり落ち葉掃除をしたり特別清掃を行ったりして、気持ちのよい環境づくりをすることができた。
生徒のコメント
たくさんの苗を植えることができ、見違えるような花壇ができたり、落ち葉でいっぱいだった通学路の坂道が美しくなったりして、気持ちが晴れ晴れした。

○ 活動面での総括

◎評価できること
児童自らが環境を美しく整え、気持ちよく生活することのよさに気づくことができた。 また、それを行う上級生や下級生の姿を見ることで、他者への感謝の気持ちがもてた。
△今後の課題
コロナ禍で他学年児童との交流や校外から講師を招いての活動に制限が発生してきた。タブレットなどの活用方法を工夫すると共に、実体験に基づく学びを何とか取り入れていきたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	
調査・研究(地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等)	福祉センターの協力による体験学習がコロナウイルス感染症拡大のため中止となったので、調べ学習を行った。(福祉施設、車いす・アイマスク体験、視覚障害の人の苦労等)

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	1 年生は、新入生を迎えるために、植木鉢にビオラを植えて育てた。6 年生は、奉仕作業の一環として学校花壇にパンジー 300 株を植えた。さらに、校内の特別清掃を行い、TV カバーなどの洗濯等をして下級生に喜んでもらえた。全校児童の休み時間ボランティアとして、学校周辺の坂道の落ち葉掃除を行った。
福祉体験	
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	
学校間の情報交換・交流等	
その他	6 年生を送る会を校内オンラインで実施した。学年毎に 6 年生へのメッセージを画用紙や黒板アート、廊下掲示にして撮影した。また、6 年生は下級生へのメッセージを同様に撮影して伝えることができた。



脇之島小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【お年寄りや体の不自由な方について知ろう】

内 容

福祉体験や調べ学習を通して、学習した内容を学習発表会で発表したり、新聞にまとめたりした。

生徒のコメント

体の不自由な方が困っていたら、自分から積極的に「お手伝いすることはありますか。」と声かけしていきたいと思いました。

○ 活動面での総括

◎評価できること

4年生の総合的な学習で福祉体験をすることで、普段の生活の中では気づけなかったお年寄りや体の不自由な方の苦労や努力を知ることができた。

△今後の課題

4年生が学習した内容を他学年に発信していくこと。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・新型コロナウイルスの感染予防のため、実施できなかった。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・福祉体験の様子を学校ホームページで紹介した。 ・福祉について学習した内容を新聞にまとめて紹介した。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	・4年生が福祉体験で学習した内容を、学校行事の学習発表会で発表した。 ・4年生が福祉に関するテーマを設け、図書館などの本やタブレット(iPad)を使って調べ学習をし、クラスで交流をした。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	・福祉施設入居者や独居老人へ、4年生児童が年賀状を送った。
地域での訪問・交流・体験活動	・3年生が公民館に見学に行き、交流会を行った。 ・地域の各種の名人を講師に招いて授業を行った。（環境教育、ラジオ体操、書き初め指導など）
学校行事への招待	・新型コロナウイルスの感染予防のため、実施できなかった。
美化・環境整備活動等	・児童が自主的に公園や道路のごみ拾いをする姿が見られた。
福祉体験	・4年生児童が、車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験などを行った。
学校行事外の参加活動	・脇之島地域行事に、地域スタッフとして登録されている児童がボランティアで参加した。
収集・募金活動	・児童の委員会が中心となって、赤い羽根共同募金に協力した。
学校間の情報交換・交流等	特になし
その他	特になし



北栄小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【地域に貢献しようとする心を育てる】

内 容

1. 地域の環境を美しくする活動(清掃活動)を通して、地域に貢献しようとする心を育てる。
2. 日常の身近な福祉活動の体験を通して、社会福祉への理解・関心を高め、思いやりの心を育てるとともに、福祉活動に対する実践意欲を高める。

児童のコメント

＜地域の清掃活動を通して＞

- ・普段歩いている通学路をよく見ると、側溝や草むらに空き缶やペットボトル、食べ物の袋が捨てられていてびっくりした。
- ・いつも使っている通学路や遊ぶところがきれいになって、とても気持ちがよかった。

＜福祉活動を通して＞

- ・車いすの人は、わずかな段差をこえるのも難しいことがわかった。困っている人がいたら手伝ってあげたいと思った。

○ 活動面での総括

◎評価できること

- ・普段、何気なく歩いている通学路や公園の掃除をすることによって、この地域に住む一員として美化に努めることの大切さを気づくことができた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の中での「福祉活動の体験」であったが、普段使ったことがない車いすの使い方を学ぶことができ、足が不自由な人の立場に立って考えることができた。

△今後の課題

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮して高齢者の方々や障がい者の方との交流は行わなかった。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたらそうした方々との交流を通して、理解につなげたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	令和３年度は、実施せず。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	「奉仕作業」として地域の清掃作業の様子を HP で紹介した。（令和３年度２月１８日：地域清掃の奉仕作業）
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	他者理解を深めるため、アイマスクをつけ、目の不自由さを実際に体験した。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	令和３年度は、実施しなかった。
地域での訪問・交流・体験活動	令和３年度は、実施しなかった。
学校行事への招待	令和３年度は、実施しなかった。
美化・環境整備活動等	２月１８日「地域を美しくしよう」と６年生が地域清掃を行った。掃除中に会った地域の方には、進んで挨拶をし、「すごいね。そうじてくれてうれしいわ。ありがとう！」と声を掛けてもらい、もっときれいにしたい！」と美しくする爽快感を味わった子どもたちであった。
福祉体験	・６年生が、アイマスクをし、目の見えない方の不自由さを感じた。
学校行事外の参加活動	令和３年度は、実施しなかった。
収集・募金活動	令和３年度は、実施しなかった。
学校間の情報交換・交流等	令和３年度は、実施しなかった。
その他	令和３年度は、実施しなかった。



笠原小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【学校の運動場を全校で整備しよう(奉仕活動)】

内 容

本校の運動場は小石が多く、また、新しく運動場に土入れをした際に、大きささまざまな石が出てきた。この石を全校児童がボランティアで作業をして運動場の整備を行った。

児童のコメント

「自分たちの呼びかけでたくさんの子が集まってくれてうれしかった。」「自分たちで運動場を使いやすくてよかった。」「人のために働けてうれしかった」「だれかのために活動できて気持ちよかった」「終わったときに先生にありがとうと言ってもらえてうれしかった」

○ 活動面での総括

◎評価できること

- ・ 勤労奉仕の心を養うにあたって、本当は遊びたい休み時間に、世のため、人のために活動するよさを実感することができた。
- ・ 高学年がリーダーとして声を上げることで、下級生が集まり、一緒に活動(作業)をすることができたことを喜ぶことができた。
- ・ 下級生は自分たちの活動により、転んだら嫌だと思っていた運動場から石が減ったことで達成感を味わうことができた。
- ・ 先生から褒められることを通して、ボランティアで活動することのよさを味わうことができた。

△今後の課題

- ・ 日常的、計画的に奉仕のタイミングを作り、その都度児童への価値付けを行うことで、本校の奉仕活動(ボランティア)への意識を高めていきたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・該当無し
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・該当無し
調査・研究(地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等)	・該当無し

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	・該当無し
地域での訪問・交流・体験活動	・該当無し(感染防止対応)
学校行事への招待	・該当無し(感染防止対応)
美化・環境整備活動等	・主に高学年は資源回収において危険がないように気を付け、各地区で親と一緒に活動した。
障がい者体験	・第5学年の児童が、総合的な学習の時間の車椅子体験やアイマスクを着けた歩行体験等、障がい者体験を行った。
学校行事外の参加活動	・コロナ禍、年2回の資源回収において、各地域で収集・運搬活動の手伝いをし、リサイクルを通して資源を大切にすることについての意識を深めた。また、集めたジーンズは、障害者就労施設の方に役立てていただくようにした。(令和3年度で終了)
収集・募金活動	・赤い羽根共同募金において、その趣旨を担任をとおして児童に伝え、募金の意欲を喚起した。しかし、学校へ金銭を持ってくることに抵抗があるため、PTAと連携し、一般会計から児童一人当たり10円を寄付することができた。
学校間の情報交換・交流等	・該当無し
その他	・該当無し



北陵中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ
【北陵中学校の校訓「誠実」をもとに、「挨拶」と「ボランティア」に取り組んでいく。】
内 容
アルミ缶回収活動を通して、限りある資源を大切にしようという実践的な態度を育成する。
生徒のコメント
家にあるアルミ缶を回収することを通して、限りある資源を守ることができることはステキだと感じます。簡単にできることですが、世の中に貢献できることなので、ぜひ続けてほしいです。

○ 活動面での総括

◎評価できること
3年生のみで行った活動であったが、多くの生徒が参加する姿があった。
△今後の課題
資源を大切にする活動が定常的な取組になると、意欲がより高まるのではと感じた。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・実施しておりません。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・生徒会通信「SKY BLUE(スカイブルー)」を発行することを通して、挨拶活動など、仲間や地域の人とのつながりを大切にする様子を発信した。
調査・研究(地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等)	・実施しておりません。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	・実施しておりません。
地域での訪問・交流・体験活動	・1年生生徒が、認知症サポーター養成講座を校内で実施した。その際、地域で活動している方に講師をしていただいた。
学校行事への招待	・実施しておりません。
美化・環境整備活動等	・アルミ缶回収活動を通して、限りある資源を大切にしようという実践的な態度を育成した。
福祉体験	・実施しておりません。
学校行事外の参加活動	・各学年の生徒が、市が主催するボランティア活動などに進んで参加を申し込む姿があった。
収集・募金活動	・実施しておりません。
学校間の情報交換・交流等	・夏と冬の多治見市連合生徒会交流会において、各校の取組状況を交流した。
その他	・特にありません。



南姫中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ 【朝のちょこっとボランティア】
内 容 アルミ缶回収、挨拶活動、コンタクトケース回収、ペットボトルキャップ回収
生徒のコメント ボランティアに参加することが、生徒会活動の活発化や困っている人を救うことに繋がったりするため、やりがいを感じました。

○ 活動面での総括

◎評価できること 「誰かの役に立ちたい」「明るく過ごせる学校にしたい」という想いを活動に反映させることができた。
△今後の課題 活動の成果を小忠実に全校生徒に報告し、活動に参加する意義を深く理解できるようにしていきたい。また、活動内容についても検討していきたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	特記事項なし
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	朝のちょこっとボランティアの活動について、学校HPで周知した。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	特記事項なし

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	特記事項なし
地域での訪問・交流・体験活動	特記事項なし （例年は姫保育園で保育実習を行っている）
学校行事への招待	特記事項なし （令和元年度まで地域と合同で運動会を行ってきたが、令和2、3年度は開催していない。4年度も開催しない方向）
美化・環境整備活動等	・第3学年の地域貢献活動で、地域の通学路の清掃が必要な場所を考え、清掃活動を計画・実施する予定だったが、学級閉鎖等があつてできなかった。 ・MSJリーダーズで学校周辺の清掃活動を行った。 ・運動会前はボランティアでグラウンド整備を行った。
福祉体験	特記事項なし
学校行事外の参加活動	特記事項なし
収集・募金活動	朝のちょこっとボランティアで、アルミ缶回収、コンタクトケース回収、ペットボトルキャップ回収を行った。
学校間の情報交換・交流等	特記事項なし
その他	



南ヶ丘中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ 【活動する意義や思いを意識した福祉活動】
内 容 毎週火曜日にアルミ缶とペットボトルキャップの回収を行い、地域の福祉施設に車いすを贈呈することと発展途上国へワクチンを送る取組を推進した。
生徒のコメント 今年度は、アルミ缶だけでなく、ペットボトルキャップの回収にも取組み始めた。ペットボトルキャップの回収の取組を全校生徒にプレゼンをし、意義を理解して活動を進められたことがよかった。

○ 活動面での総括

◎評価できること 様々な制限がある中で、日常の生徒会活動の充実に努めてきた。特に福祉委員会のアルミ缶やペットボトルキャップ回収は、継続的に熱心に取り組む、地域の福祉施設に車椅子の寄贈ができたことがよかった。
△今後の課題 コロナ禍で、福祉施設の訪問や清掃活動等、地域と関わりある取組ができていない。社会状況を見て、福祉教育の取組を充実させていきたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	1年生の総合的な学習の時間の一環として、認知症サポーター講座を行った。認知症を抱える方々との関わり方や、他者への思いやりの心をもって生活していく必要があることを学んだ。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	月に一回、福祉委員会より委員会新聞を各学級に発行・掲示している。生徒から集めた意見や委員長の考えを伝えたり、福祉活動の参加率が高い学級を紹介したりした。
調査・研究(地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等)	1年生の総合的な学習の時間一環として、「福祉」をテーマに個人追究を行った。個々が追究課題を設定し、図書館の本やパソコンを使って調べ学習を行い、わかったことや考えたことなどを新聞にまとめたり、画用紙を使って発表したりした。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	コロナ禍であることから福祉施設に出向いて活動することはできなかった。
地域での訪問・交流・体験活動	
学校行事への招待	アルミ缶回収で得た利益で、地域の福祉施設に車椅子を贈呈することができたが、贈呈式等は実施することができなかった。
美化・環境整備活動等	例年のようなゴミ拾いの活動は自粛せざるを得なかった。
福祉体験	補助金で購入した一輪車や熊手などを活用し、学校敷地内駐車場の水たまりに砂利を入れたり、草木の剪定時に出た枝葉の片付けを行ったりした。
学校行事外の参加活動	子どもスタッフなどのボランティア活動で、生徒が積極的に地域行事の手伝いをしている。学校でも、地域のボランティア募集があった際には参加するよう促した。
収集・募金活動	アルミ缶回収で得た利益で車椅子を購入し、地域の福祉施設に車椅子を寄贈した。ペットボトルキャップの回収を行い、発展途上国へワクチンを送る活動を行った。
学校間の情報交換・交流等	
その他	

陶都中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ
【生徒の自主性を高めることで、福祉や奉仕の心を育む】
内 容
『朝のピックアップボランティア活動』では、生徒主体で、地域のゴミ拾いボランティア活動を、年間を通して継続して行った。
生徒のコメント
年間を通して活動を行うことで、少しずつ、より多くの生徒が参加してくれるようになり、嬉しかった。

○ 活動面での総括

◎評価できること
・生徒会を中心とした、ボランティア活動を行うようにすることで、自主的に地域のボランティア活動へ参加しようとする姿が多く見られるようになった。
△今後の課題
・今後も生徒会による組織的なボランティア活動を学校全体で行うようにすることで、自主性をさらに高めるようにする。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・生徒会執行部を始めとした生徒会組織によるゴミ拾いボランティア活動の広報
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	・ゴミ拾いボランティア活動実施 （毎月2回、年20回程度実施）
福祉体験	
学校行事外の参加活動	・MSJリーダーズ活動への参加 →学校校門でのあいさつ運動
収集・募金活動	
学校間の情報交換・交流等	・連合生徒会に生徒会役員が参加
その他	



多治見中学校



今年度の重点活動

テーマ 【内面の輝きを求めて】
内 容 全ての生徒が「輝き隊」としての意識を持ち、清掃活動や地域行事の手伝いなどの奉仕活動を通して、地域との交流を図り、同時に自己の心を磨く。
生徒のコメント 今年もコロナの影響があったが、昨年よりも地域へ出向いてのボランティア活動ができた。伝統の「通学路清掃」なども、定期的に行うことができ、少しでも地域へ貢献できたことが良かったです。

○ 活動面での総括

◎評価できること 地域行事や公民館、児童館の催し物において、「輝き隊」の活動が期待されている。今年も、感染症予防で活動が制限される中、できる範囲内で取り組むことができた。また、令和元年度から始めた「生徒リーダーが中心となって動く輝き隊のシステム」により、生徒の自主性が維持されている。
△今後の課題 公民館や児童館、各地区のボランティア担当者と生徒のリーダーが直接連絡を取り合い、卒業後も継続していける「輝き隊」をめざしていく。 校内の「輝き隊」担当の職員の負担を軽減していきたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	学校便り、ホームページ、委員会ポスター、昼の放送、掲示で参加募集を行ったり、活動報告、生徒の活躍や地域からの感謝の言葉を伝えたりした。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	10/24「養正幼稚園・地域高齢者交流会 かかしづくり」お手伝い 10/30「坂上児童館ハロウィン」お手伝い 11/ 6「養正公民館まつり」あそびの広場での運営お手伝い 11/27「坂上児童館 科学の広場四足とこところロボットづくり」お手伝い 12/ 4「坂上児童館 園児対象クリスマス会」お手伝い 12/ 5「養正公民館 こころあったかクリスマス」お手伝い 12/11「坂上児童館 小学生対象クリスマス会」お手伝い
地域での訪問・交流・体験活動	11/27「滝呂ブラブラまつり」運営・お手伝い 【今年度できなかったこと】 「うながっポーツ」運営・お手伝い
学校行事への招待	【今年度できなかったこと】 体育祭、合唱祭、中庭コンサート への招待
美化・環境整備活動等	校内での花苗育成→滝呂校区青少年まちづくり市民会議主催 「花いっぱい運動 花の里親募集」地域に花苗を配付 ① 春 6/20 ② 秋 11/21 校内花壇整備 ゴミ拾い登校（通学路清掃） 【今年度できなかったこと】 29 区（滝呂町）通学路階段清掃、 花火大会翌朝の河川敷等清掃
福祉体験	
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	赤い羽根共同募金（11/1～12/3） → 4,416円
学校間の情報交換・交流等	
その他	



小泉中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ 【誰かのために】
内 容 アルミ缶を回収し、換金したお金で車いすを購入し、社会協議会さんへ寄付した。また、赤い羽根共同募金やユニセフ募金などを行い、社会に貢献できる活動を目指した。
生徒のコメント 今年は、「誰かのために」をテーマに、アルミ缶回収や、募金活動、花壇づくりなどを行いました。ボランティア活動を通して、助け合いの輪が広がっていることを実感できました。

○ 活動面での総括

◎評価できること アルミ缶回収や募金活動を行い、学校全体のボランティアに参加しようという意識を高めることができた。
△今後の課題 アルミ缶回収や募金活動など、参加する生徒数は、学級によって差があった。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・LGBTQ の講演会を行った。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・学校だよりや委員会新聞などで、活動の参加募集や、アルミ缶回收集計表を掲示したりするなどの活動報告を行った。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	・公民館やまちづくり市民会議主催のボランティアに参加した。
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	・校内の清掃活動ボランティアや、花壇の整備を行った。
福祉体験	
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	・毎週金曜日にアルミ缶回収を行った。集まったアルミ缶で車いすを購入し、2月に贈呈式を行った。 ・赤い羽根共同募金・ユニセフ募金を行った。
学校間の情報交換・交流等	
その他	



平和中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ 【全校地域清掃】
内 容 通学路、昭和公園、遊歩道の清掃活動
生徒のコメント 今年度は2回しか行うことはできませんでしたが、学年を越えて協力して通学路や公園の落ち葉やゴミを集めてきれいにすることができました。先輩方が続けてきたこの活動を僕たちが後輩に引き継いで、さらに地域貢献していきたいです。

○ 活動面での総括

◎評価できること 普段自分たちが通っている通学路や遊歩道の清掃活動を行い、集まったゴミの量の多さにやりがいを感じる。地域の方々から励ましや感謝の言葉をいただき、社会貢献活動の意義を自覚できた。
△今後の課題 : 清掃活動を行うだけでなく、すれ違った人や利用している人への挨拶を活発にしていくことで、もっと明るい地域にしていきたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	写真家・防災士である三浦寛行氏を招き、「東日本大震災」の写真展、「東日本大震災と人権」に関わる講演会を開催した。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	学校報「平和富士」により、「地域清掃」のようすの活動報告を行った。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	・地域の行事にボランティアとして積極的に参加するよう生徒会を中心に取り組んだ。 ・吹奏楽部の生徒が、意欲的に地域行事に参加して演奏活動を行った。
地域での訪問・交流・体験活動	・2年生の生徒が、「職場体験学習」の一環として、保育園、幼稚園、NPO 法人等へ訪問し、幼児や利用者の方と交流、体験活動を行った。
学校行事への招待	・体育祭や合唱祭、財産交流会等の行事に保護者を招待したり、リモート配信を行って家庭でも活動のようすを見られるようにしたりした。
美化・環境整備活動等	・生徒会が中心となり社会貢献活動の一環として、「全校地域清掃」を実施し、通学路や遊歩道の美化活動に取り組んだ。
福祉体験	
学校行事外の参加活動	・地域の行事にボランティアとして積極的に参加するよう生徒会を中心に取り組んだ。
収集・募金活動	・生徒会が中心となりアルミ缶・ペットボトルキャップの回収を行い、ユニセフに寄付をし、その結果を学校報、生徒会だよりで配布した。
学校間の情報交換・交流等	・連合生徒会の場において、本校の実践を発表し、他校との交流を図っている。
その他	



笠原中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ 【地域とつながる「はあとふる」な心】
内 容 新型コロナの影響により、地域での活動は制限されたが、社会福祉協議会の「見守り講座」を実施し、地域に貢献する態度を身に付けた。
生徒のコメント 身のまわりの孤立死をなくすために、自分にできることを考えていきたいと思いました。今でもできることがたくさんあるので、まずは、近所の人たちと仲良くしたいです。

○ 活動面での総括

◎評価できること ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、様々な活動が中止された。また、実施できた活動もかなり縮小して行われた。その中で、生徒たちが自分たちにできることを見つけようと努力し、活動内容や活動方法を工夫しながら取り組めたことは大いに評価できる。 ・ 生徒会活動の伝統的な活動の一つとして位置付いている「M美化活動」を、全校生徒による活動とするため、生徒会執行部・代表委員を中心に呼びかけ、分団ごとに美化活動を行った。人数を制限して行うことで、3密を避けながら活動を継続することができた。 ・ 「笠原の森」整備活動に継続的に取り組み、環境問題に対する意識を高めることができた。 ・ 生徒会が中心となり、ペットボトルのキャップを集める活動を行った。
△今後の課題 ・ 環境整備活動にさらに力を入れ、中学生が自分たちの力で企画・運営できる活動を取り入れていきたい。 ・ 1年生が「ふるさと学習」を行ったように、ふるさとである笠原町の特色を学ぶ機会を充実させたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・ 学校報『希望』の配布（笠原校区まちづくり市民会議の協力を得て毎月笠原町の全戸に配布している。8年目。） ・ 学校ホームページを充実させ広報活動を行った。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	・ 「笠原の森」整備活動では国土交通省、多治見市役所と連携して安全に取り組むとともに、「笠原の森」整備活動を通して環境問題を考えさせる。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	・ 笠原児童館の児童館祭りにボランティアとして参加する予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため参加を自粛することとなった。 ・ 社会福祉協議会主催のボランティア体験に積極的に参加する予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため参加を自粛することとなった。
地域での訪問・交流・体験活動	・ 地域行事である「いこまい祭り」「正月フェスティバル」のボランティアスタッフとして参加し、地域の方や小学生・幼児と交流を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため自粛することとなった。
学校行事への招待	・ 体育大会、笠原校区幼保小中一貫教育の日、合唱発表会、入学式、卒業式の招待予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため自粛することとなった。
美化・環境整備活動等	・ 生徒会によるM美化活動で毎週1回の朝通学路のゴミ拾いを行い地域の環境美化に貢献した。 ・ 笠原の森の整備作業に取り組んだ。
福祉体験	・ 12月8日1年生生徒対象に『認知症講話』を開き、多治見市の認知症サポーターを講師として認知症に対する学習会を行った。
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	・ 生徒会が中心となり、ペットボトルのキャップを集め、世界の子どもたちのワクチン接種を助ける活動を行った。
学校間の情報交換・交流等	・ 令和4年1月7日に行われた多治見市中学校連合生徒会で「はあとふる笠中」の活動について市内の生徒会執行部の生徒と交流できた。
その他	

